

## 業況特別調査（令和4年6月） 「人材採用等についてのアンケート」調査結果

調査期間：令和4年6月1日（水）～10日（金）

回答率：25.0%（180/719社）（昨年：27.3% 198/725社）

### 問1. 新卒の採用計画、採用実績について

180社回答のうち、56社（31.1%）は、令和3年度新卒の採用計画及び実績、又、令和4年度新卒の採用計画もない企業である。

#### < A-1：人数による集計 >

	大卒・院卒	短大・高専・専門卒	高卒	合計
令和4年度 採用計画 (R3計画比) (R3実績比)	326人 68社 (15.2%) (40.5%)	84人 45社 (52.7%) (71.4%)	353人 97社 (14.2%) (58.3%)	763人 210社 (17.9%) (51.4%)
令和3年度 採用計画	283人 61社	55人 32社	309人 82社	647人 175社
令和3年度 採用実績 (R3計画比)	232人 うち女性64人 44社 (▲18.0%)	49人 うち女性19人 26社 (▲10.9%)	223人 うち女性41人 65社 (▲27.8%)	504人 うち女性124人 135社 (▲22.1%)

上から採用人数、回答企業数、（ ）内は各比率

・令和4年度採用計画は、社数では210社（昨年175社）と増加（20.0%）しており、人数でも令和3年度より17.9%（昨年▲1.9%）と増加している。

・令和3年度採用計画と採用実績の人数比較では、高卒は▲27.8%と昨年同様（昨年▲21.9%）採用計画を下回っており、依然として難しい状況が続いている。

・合計を見ると、令和4年度採用計画と令和3年度採用計画では17.9%の増加、令和4年度採用計画と令和3年度採用実績では51.4%（昨年23.3%）と大幅増。

・令和3年度採用実績と計画の比較では、大卒・院卒は▲18.0%（昨年▲19.3%）と計画より実績が下回り、短大・高専・専門卒は▲10.9%（昨年▲21.1%）、高卒も▲27.8%（昨年▲21.9%）と計画を下回り、合計でも▲22.1%（昨年▲20.5%）と、依然として採用環境は厳しい状況である。

< B-1 : (企業単位での増減比較) 令和4年度採用計画と令和3年度採用計画との増減比較による集計 >

	大卒・院卒	短大・高専 ・専門卒	高卒	新卒採用 全体
増加 R4採用計画>R3採用計画	37.5% 27社	41.7% 20社	35.3% 36社	37.4% 83社
同様	51.4% 37社	47.9% 23社	52.9% 54社	51.3% 114社
減少 R4採用計画<R3採用計画	11.1% 8社	10.4% 5社	11.8% 12社	11.3% 25社
合計	100% 72社	100% 48社	100% 102社	100% 222社

上段は各構成率、下段は回答者数

※1名でも増えていると増加、1名でも減っていると減少とカウント。

< B-2 : 令和3年度の採用実績と採用計画との比較 >

	大卒・院卒	短大・高専 ・専門卒	高卒	新卒採用 全体
増加 採用実績>採用計画	18.5% 12社	32.5% 13社	9.3% 8社	17.3% 33社
採用計画と同数採用	24.6% 16社	22.5% 9社	33.7% 29社	28.3% 54社
減少 採用実績<採用計画	56.9% 37社	45.0% 18社	57.0% 49社	54.4% 104社
合計	100% 65社	100% 40社	100% 86社	100% 191社

・令和3年度の採用実績と採用計画の比較においては、全体では、計画を下回る企業が54.4% (昨年54.7%) となっており、計画通りに採用が進まなかったという結果になった。

問2. 令和4年度採用計画が前年採用計画と比較し変更(増減)した理由。

	令和4年6月	令和3年6月
既存事業の繁忙が見込まれるため	51.8% (44社)	26.4% (23社)
新規事業拡大のため	9.4% (8社)	6.9% (6社)
計画通りに採用できなかったため	21.2% (18社)	20.9% (18社)
業績悪化が見込まれるため		6.9% (6社)
前年、見込以上の採用が出来たため		8.0% (7社)
もともとの計画通りに採用を減らした		8.0% (7社)
その他	17.6% (15社)	22.9% (20社)
合計	100% (85社)	100% (87社)

【その他意見】

- ・ 在職社員の退職者の補充
- ・ 同年齢の子と話しやすいだろうから
- ・ 将来を見越した人員体制の確立
- ・ 内製化のため
- ・ コロナ直撃時に採用できなかったため
- ・ 高齢化による人員不足が懸念されるため

問3. 問1に関連して、人材不足を補うために年度途中の採用者数について

	令和3年度	令和2年度	増減率
中途採用者	506人(129社)	352人(109社)	43.7%(18.3%)

問4. 定年後の継続雇用者、派遣社員、パート・アルバイトの人員の増減について、1年前との比較

<人数別比較> ※各年度は、就労者がいる人員と会社の合計である

	令和4年6月	令和3年6月	増減率	昨年参考
継続雇用者	1,425人(137社)	1,321人(130社)	7.8%	5.0%
派遣社員	1,925人(82社)	1,956人(76社)	▲1.6%	5.1%
パート・アルバイト	842人(115社)	787人(114社)	7.0%	▲2.6%
外国人実習生	609人(69社)	613人(64社)	▲0.6%	▲13.2%

<企業別増減比較>

	増加	横ばい	減少	合計
継続雇用者	38.0% 54社	40.2% 57社	21.8% 31社	100% 142社
派遣社員	49.4% 43社	27.6% 24社	23.0% 20社	100% 87社
パート・アルバイト	28.7% 35社	51.6% 63社	19.7% 24社	100% 122社
外国人実習生	27.1% 19社	27.1% 19社	45.8% 32社	100% 70社

※1名でも増えていると増加、1名でも減っていると減少とカウント。

- ・ 継続雇用者は、人数別比較で見ると、7.8%の増加であり、企業毎による増減比較でも増加38.0%、減少21.8%となっており、**企業単位で見ても増加傾向にある。**
- ・ 派遣社員は、人数別比較で見ると、▲1.6%と減少となり、企業毎による増減比較では、増加49.4%、減少23.0%となっており、**企業単位で見ると増加傾向にある。**
- ・ パート・アルバイトは、人数別比較で見ると、7.0%の増加となり、企業毎による増減比較では増加28.7%と減少19.7%となっており、**企業単位で見ても増加傾向にある。**
- ・ 外国人実習生は、新型コロナウイルスの影響で入国が出来ずにおり、人数別比較では▲0.6%と微減であるが、**企業単位で見ると減少傾向にある。**

<国籍別構成> ※社数は延べ数

国籍	社数	R4.6月現在の人数（構成比）	R3.6月現在の人数（構成比）	増減率
ベトナム	47社	336人（55.2%）	391人（59.3%）	▲14.1%
中国	19社	143人（23.5%）	174人（22.2%）	▲17.8%
フィリピン	5社	83人（13.6%）	5人（11.2%）	1560%
ミャンマー	3社	19人（3.1%）	12人（2.0%）	58.3%
その他	6社	28人（4.6%）	29人（5.3%）	▲3.4%
合計	80社	609人（100%）	611人（100%）	▲0.3%

問5. 人材確保の現状についてのコメント

- ・大卒理系採用困難、女性若年者の離職が多い
- ・中途採用の離職率が多い
- ・離職者増
- ・人材の確保が思うように進まない
- ・中途採用を進めています
- ・ハローワークからの応募にたよっています
- ・派遣確保に苦戦
- ・シルバー人材センターへ依頼中
- ・現業技能者が非常に確保しづらい
- ・若年層について毎年、ハローワーク・人材紹介会社等に募集も採用実績なし
- ・募集に対して求職者が少ない。実習生は、渡航・入国制限の状況次第で調整している状況です
- ・少人数（12名）で営業しているので1名でも欠けると厳しい状況、離職予定者がいる為確保に動いているが正社員で長く勤めてもらいたいので外国人雇用は考えていない
- ・コロナ禍で、一年前に居てくれた実習生が4名帰国してしまい人材確保に大変でした。賃金が高いのはわかっているが、どうしても人材派遣を入れるしかなく、現在も資金繰り大変です
- ・外国人実習生だけに頼らず、会社の将来を担う人材採用を進めている。しかし、募集しても面接に来てもらえない状況が続いている
- ・人材確保が年々難しくなっており、海外の人材に頼らざるをえない状況
- ・コロナの影響で外国人実習生の入国ができない
- ・入国制限の間に2名キャンセルされた。受注も不安定なため求人することもためられる
- ・入国が滞っていた外国人研修生が入ってくる目途が立った
- ・コロナの影響で外国人労働者の受入が停止していたが、徐々に再開しているので引き続き受入体制を継続していく方向
- ・今年11月に3年を迎える実習生を特定技能に切り替え、継続して働いてもらう予定です
- ・定年再雇用制度の拡充により、平均年齢が上昇傾向にある
- ・労働環境の整備や福利厚生の実等で離職率を抑制
- ・新人事制度見直し、給与改善
- ・PR動画を作成したり、年間休日、現状109日を来年1月より120日に大幅に増やすなど、より多くの学生の「審査の目」に留まるよう努めています